

特別企画：都内に本店を置く 23 信用金庫 預金・貸出金調査(2020 年 3 月期)

預金、貸付金ともに合計額は増加傾向続く

～西武信金の貸付金が大幅減～

はじめに

10 月 1 日、長崎県を基盤とする「十八銀行」と「親和銀行」が合併し「十八親和銀行」が誕生するほか、来年 1 月には新潟県を基盤とする「第四銀行」と「北越銀行」の合併も予定されるなど、引き続き地方銀行を中心に再編機運が高まっている。こうしたなか、信用金庫でも今年 1 月に宮崎県で「宮崎都城信用金庫」と「南郷信用金庫」が合併し「宮崎第一信用金庫」が誕生したほか、9 月には石川県で「北陸信用金庫」と「鶴来信用金庫」が合併し「はくさん信用金庫」が誕生した。東京都の信用金庫については、2006 年 1 月に 3 金庫が合併し「多摩信用金庫」が発足したのを最後に合併は行われておらず、今後注目が集まっている。

帝国データバンクでは、東京都内に本店を置く 23 の信用金庫の、預金積金残高、貸出金残高、自己資本比率、の推移について調査した。

調査結果（要旨）

- 2020 年 3 月末時点での東京都内に本店を置く 23 金庫の預金積金残高の合計は、25 兆 5090 億 8600 万円(前年比 1.21%増)。23 金庫中、19 金庫で増加した。
- 2020 年 3 月末時点での 23 金庫の貸出金残高の合計は、14 兆 481 億 5100 万円。前年比で 0.34% 増となり、23 金庫中 21 金庫で増加した。
- 2020 年 3 月末時点での 23 金庫の平均自己資本比率は 9.58%となり、6 年連続で低下した。また、3 年連続で 10%を下回った。
- 2020 年 3 月末時点での 23 金庫の金融再生法上の不良債権の合計は 4704 億 100 万円で、前年比で 179 億 5600 万円減少した。

23 金庫の貸出金残高(増減率順)

金庫名	貸出金残高	前年比(%)
朝日信用金庫	1,138,896	5.58
興産信用金庫	197,380	4.13
亀有信用金庫	255,341	3.86
足立成和信用金庫	253,943	3.25
東京シティ信用金庫	445,826	3.09
瀧野川信用金庫	333,460	2.83
青梅信用金庫	463,204	2.65
目黒信用金庫	93,228	2.43
東京信用金庫	690,838	2.36
昭和信用金庫	185,693	2.05
東栄信用金庫	63,610	1.74
多摩信用金庫	1,090,416	1.71
東京三協信用金庫	103,622	1.65
芝信用金庫	520,840	1.47
西京信用金庫	352,815	1.12
東京東信用金庫	1,013,893	1.02
巣鴨信用金庫	896,138	0.97
さわやか信用金庫	822,249	0.77
小松川信用金庫	81,047	0.77
世田谷信用金庫	126,974	0.69
城南信用金庫	2,211,568	0.65
城北信用金庫	1,209,066	▲ 0.16
西武信用金庫	1,498,104	▲ 9.98
合計	14,048,151	0.34

(単位: 百万円、2020年3月末)

1. 預金積金残高 ～23 金庫合計で 25 兆 5090 億円

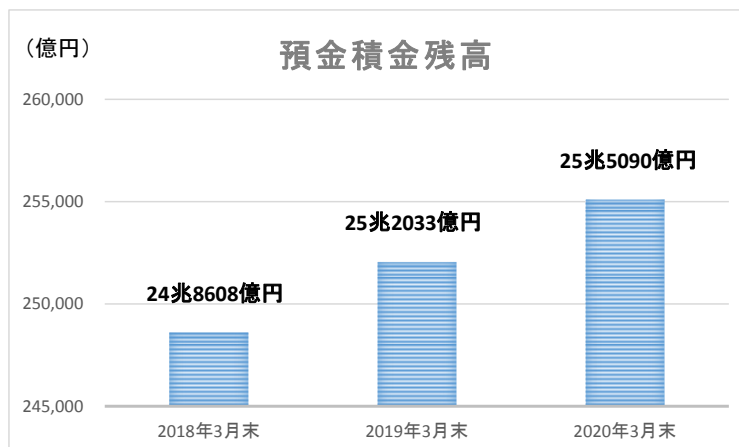
2020 年 3 月末時点の 23 金庫の預金積金残高の合計は 25 兆 5090 億 8600 万円となり、2019 年 3 月末 (25 兆 2033 億 1700 万円) 比で 3057 億 6900 万円増加 (1.21%増) した。

23 金庫中 19 金庫 (構成比 82.6%) で預金積金を伸ばし、総預金積金残高の増加が続いている。

2020 年 3 月末時点で、預金積金残高が 1 兆円を超えているのは、3 兆 6934 億円の「城南」、2 兆 8028 億円の「多摩」、2 兆 4839 億円の「城北」をはじめ、「西武」「東京東」「巣鴨」「朝日」「さわやか」「芝」「東京」の 10 金庫。

前年比で最も預金積金残高の増幅が大きかったのは、「東京」(5.33%増)。以下、「東京シティ」(5.02%増)、「世田谷」(3.57%増) と続いた。一方でマイナスとなったのは「東京三協」(2.18%減) や「西武」など 4 金庫だった。

各金庫では、少子高齢化の進行といった社会の変化を踏まえ、高齢者や子育て世代向け商品を拡充するなど多様化する利用者のニーズや資金運用に対応するべく幅広い預金商品を取り揃えていることが増加に寄与している。増加率 5.33% で 23 信金中トップとなった「東京」は、初めて 1 兆円の台に乗せた。



預金積金残高

金庫名	預金積金残高(単位:百万円)			前年比 (%)
	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末	
城南信用金庫	3,632,440	3,660,919	3,693,474	0.89
多摩信用金庫	2,702,799	2,740,758	2,802,870	2.27
城北信用金庫	2,437,670	2,464,535	2,483,910	0.79
西武信用金庫	1,935,136	2,041,645	2,010,966	▲ 1.50
東京東信用金庫	1,828,479	1,830,058	1,857,880	1.52
巣鴨信用金庫	1,778,333	1,797,453	1,833,705	2.02
朝日信用金庫	1,761,684	1,779,080	1,778,977	▲ 0.01
さわやか信用金庫	1,472,315	1,466,923	1,467,603	0.05
芝信用金庫	1,108,968	1,116,391	1,125,891	0.85
東京信用金庫	922,558	965,031	1,016,458	5.33
青梅信用金庫	757,475	769,097	779,207	1.31
東京シティ信用金庫	669,983	679,733	713,879	5.02
瀧野川信用金庫	653,564	653,580	659,363	0.88
西京信用金庫	633,765	634,629	637,067	0.38
亀有信用金庫	535,557	546,364	559,661	2.43
足立成和信用金庫	492,973	501,434	510,185	1.75
昭和信用金庫	410,714	413,444	416,330	0.70
興産信用金庫	333,748	334,158	343,425	2.77
世田谷信用金庫	208,198	212,546	220,135	3.57
目黒信用金庫	167,447	168,496	172,525	2.39
東京三協信用金庫	151,651	156,544	153,136	▲ 2.18
小松川信用金庫	137,207	140,200	142,144	1.39
東栄信用金庫	128,142	130,299	130,295	▲ 0.003
合計	24,860,806	25,203,317	25,509,086	1.21

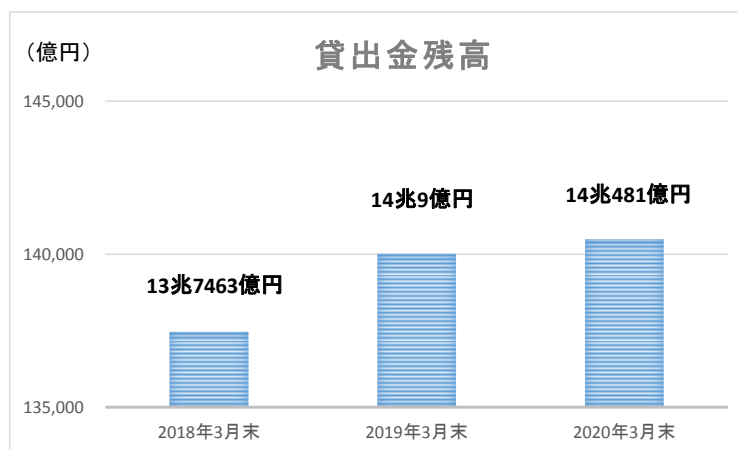
2. 貸出金残高 ～23 金庫合計で 14 兆 481 億円

2020 年 3 月末時点の 23 金庫の貸出金残高の合計は 14 兆 481 億 5100 万円となり、2019 年 3 月末 (14 兆 9 億 2800 万円) 比で 472 億 2300 万円増加 (0.34%増) した。23 金庫中 21 金庫 (構成比 91.3%) で貸出金残高を伸ばした。中小事業者向け融資に積極的に取り組んでいることなどが貸出金の増加につながっているものの、西武信用金庫の前期比 9.98%の減少が影響し、全体でも同 0.34%増 (前年は 1.85%増) と伸びは鈍化した。

貸出金残高が 1 兆円を超えているのは、2 兆 2115 億円の「城南」、1 兆 4981 億円の「西武」、1 兆 2090 億円の「城北」、1 兆 1388 億円の「朝日」、1 兆 904 億円の「多摩」、1 兆 138 億円の「東京東」の 6 金庫。「朝日」が前年に続いて前年比 5%以上の増加となった。

前年比 2 ケタの伸びを記録した信金はなく、最も増加率が大きかったのは、「朝日」(5.58%増)。以下、「興産」(4.13%増)、「亀有」(3.86%

増) が続いた。投資用不動産向け融資問題のあった「西武」は、2019 年 3 月末で前年比 0.14%増とこれまでの増加傾向 (2017 年 3 月末=15.76%増、2018 年 3 月末=14.84%増) が鈍化していたが、2020 年 3 月末では前年比 9.98%減と大幅なマイナスとなった。その他、増加率がマイナスとなったのは「城北」で 0.16%減となった。



貸出金残高

金庫名	貸出金残高(単位:百万円)			前年比 (%)
	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末	
城南信用金庫	2,196,749	2,197,278	2,211,568	0.65
西武信用金庫	1,661,855	1,664,246	1,498,104	▲ 9.98
城北信用金庫	1,202,959	1,210,996	1,209,066	▲ 0.16
朝日信用金庫	1,027,303	1,078,748	1,138,896	5.58
多摩信用金庫	1,033,057	1,072,061	1,090,416	1.71
東京東信用金庫	979,602	1,003,696	1,013,893	1.02
巢鴨信用金庫	881,215	887,491	896,138	0.97
さわやか信用金庫	812,034	815,929	822,249	0.77
東京信用金庫	640,934	674,909	690,838	2.36
芝信用金庫	507,669	513,314	520,840	1.47
青梅信用金庫	426,866	451,257	463,204	2.65
東京シティ信用金庫	417,392	432,478	445,826	3.09
西京信用金庫	358,007	348,911	352,815	1.12
瀧野川信用金庫	311,146	324,270	333,460	2.83
亀有信用金庫	233,458	245,848	255,341	3.86
足立成和信用金庫	235,670	245,961	253,943	3.25
興産信用金庫	186,469	189,550	197,380	4.13
昭和信用金庫	185,332	181,966	185,693	2.05
世田谷信用金庫	121,707	126,108	126,974	0.69
東京三協信用金庫	99,743	101,940	103,622	1.65
目黒信用金庫	90,642	91,017	93,228	2.43
小松川信用金庫	76,446	80,430	81,047	0.77
東栄信用金庫	60,130	62,524	63,610	1.74
合計	13,746,385	14,000,928	14,048,151	0.34

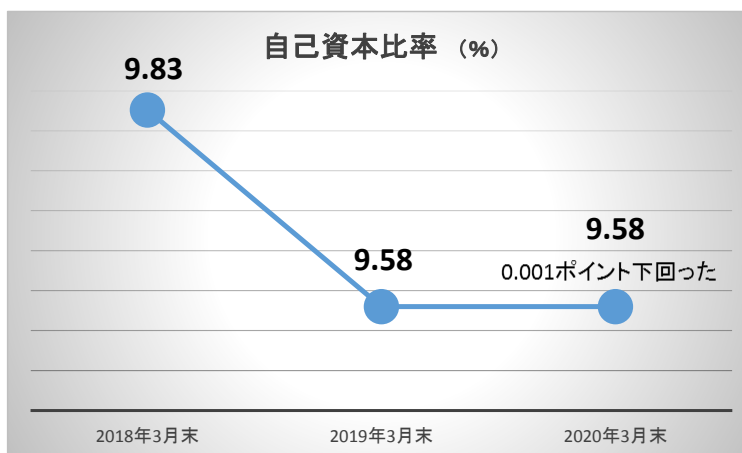
3. 自己資本比率 ～平均 9.58%と 3 年連続の 10%割れ

23 金庫の平均自己資本比率を見ると、2017 年 3 月末 10.04%→2018 年 3 月末 9.83%→2019 年 3 月末 9.58%→2020 年 3 月末 9.58 と 3 年連続で 10%割れとなった。

2020 年 3 月末時点で 23 金庫中、最も自己資本比率が高かったのは「亀有」で 15.47%。次いで「東栄」で 11.14%、「西武」で 11.00%となり、自己資本比率が 10%を上回っているのは 23 金庫中 9 金庫となった。

前年比で最も増加率が大きかったのは「西武」(1.34 ポイント増)。そのほか増加したのは「さわやか」「西京」「東京」「青梅」「瀧野川」など 12 金庫。

自己資本比率は引き続き全 23 金庫で国内基準の 4%を上回ったもののほぼ横ばいとなっており、低金利政策が長期化するなか、経営の健全性確保に苦慮している様子がうかがえる。



自己資本比率

金庫名	自己資本比率			前年比 (ポイント)
	2018年3月末	2019年3月末	2020年3月末	
亀有信用金庫	18.00	16.59	15.47	▲ 1.12
東栄信用金庫	12.21	11.76	11.14	▲ 0.62
西武信用金庫	9.31	9.66	11.00	1.34
目黒信用金庫	10.23	10.39	10.46	0.07
芝信用金庫	11.16	10.89	10.39	▲ 0.50
東京東信用金庫	11.02	10.23	10.30	0.07
巣鴨信用金庫	10.50	10.10	10.16	0.06
昭和信用金庫	9.92	10.16	10.11	▲ 0.05
西京信用金庫	9.61	9.75	10.10	0.35
青梅信用金庫	9.73	9.54	9.67	0.13
瀧野川信用金庫	10.33	9.44	9.57	0.13
城南信用金庫	9.74	9.63	9.52	▲ 0.11
小松川信用金庫	10.14	9.40	9.39	▲ 0.01
足立成和信用金庫	8.98	9.02	9.01	▲ 0.01
興産信用金庫	9.01	8.71	8.72	0.01
朝日信用金庫	9.05	8.83	8.65	▲ 0.18
東京三協信用金庫	8.98	8.62	8.48	▲ 0.14
東京信用金庫	8.07	8.26	8.43	0.17
東京シティ信用金庫	8.05	8.23	8.19	▲ 0.04
多摩信用金庫	8.36	8.01	8.13	0.12
さわやか信用金庫	7.81	7.71	8.09	0.38
城北信用金庫	7.83	7.80	7.88	0.08
世田谷信用金庫	7.96	7.61	7.46	▲ 0.15
平均	9.83	9.58	9.58	▲ 0.001

4. 金融再生法上の不良債権

23 金庫の金融再生法上の不良債権の総額をみると、2020 年 3 月末は 4704 億 100 万円となり、2019 年 3 月末 (4883 億 5700 万円) 比で 179 億 5600 万円減少した。2020 年 3 月末時点で 23 金庫中 16 金庫が前年比減少、同 7 金庫が増加した。

前年比で最も減少したのが「城北」の 48 億 8400 万円減。以下、「東京東」43 億 6300 万円減、「瀧野川」31 億 3500 万円減と続く。一方で、前年比で最も増加したのは「西武」の 63 億 100 万円増。以下、「東京」の 7 億 8800 万円、「芝」の 4 億 4000 万円、「東京シティ」2 億 7400 万円と続く。

また、23 金庫の金融再生法上の不良債権に対する保全率をみると、98.88%で「朝日」がトップ。以下、「城南」98.80%、「昭和」98.55%、「世田谷」98.29%と 23 金庫中 14 金庫が 90%を上回っている。一方で、「東京シティ」69.44%、「多摩」78.85%の 2 金庫は 80%を下回った。

前年比で最も低下したのは、8.29 ポイント減の「目黒」。以下、「芝」5.84 ポイント減、「興産」0.96 ポイント減と続く。23 金庫中、保全率が向上したのが 14 金庫、低下したのが 9 金庫。

金融再生法上の不良債権

金庫名	金融再生法上の不良債権 (単位: 百万円)		
	2019年3月末	2020年3月末	前年比
多摩信用金庫	68,363	67,792	▲ 571
城南信用金庫	53,723	50,925	▲ 2,798
城北信用金庫	49,144	44,260	▲ 4,884
巢鴨信用金庫	39,944	39,788	▲ 156
朝日信用金庫	40,069	37,896	▲ 2,173
東京東信用金庫	39,639	35,276	▲ 4,363
さわやか信用金庫	30,506	29,133	▲ 1,373
西武信用金庫	22,133	28,434	6,301
東京シティ信用金庫	16,579	16,853	274
西京信用金庫	17,030	16,419	▲ 611
東京信用金庫	15,554	16,342	788
青梅信用金庫	16,290	15,929	▲ 361
芝信用金庫	12,417	12,857	440
瀧野川信用金庫	15,635	12,500	▲ 3,135
亀有信用金庫	12,530	11,226	▲ 1,304
興産信用金庫	12,183	10,825	▲ 1,358
足立成和信用金庫	7,938	7,548	▲ 390
昭和信用金庫	7,602	5,835	▲ 1,767
世田谷信用金庫	3,440	3,103	▲ 337
小松川信用金庫	2,454	2,633	179
東栄信用金庫	2,360	2,417	57
東京三協信用金庫	2,210	1,731	▲ 479
目黒信用金庫	614	679	65
合計	488,357	470,401	▲ 17,956

保全率

金庫名	保全率 (単位: %)		
	2019年3月末	2020年3月末	前年比 (ポイント)
朝日信用金庫	95.47	98.88	3.41
城南信用金庫	99.10	98.80	▲ 0.30
昭和信用金庫	98.71	98.55	▲ 0.16
世田谷信用金庫	97.39	98.29	0.90
東京三協信用金庫	94.07	97.86	3.79
足立成和信用金庫	93.13	94.47	1.34
巢鴨信用金庫	93.76	94.27	0.51
亀有信用金庫	91.47	93.59	2.12
青梅信用金庫	93.26	93.25	▲ 0.01
小松川信用金庫	90.89	92.66	1.77
目黒信用金庫	100.16	91.87	▲ 8.29
東京信用金庫	85.90	91.70	5.80
東栄信用金庫	91.08	90.92	▲ 0.16
西京信用金庫	91.09	90.21	▲ 0.88
西武信用金庫	87.79	89.76	1.97
東京東信用金庫	89.29	89.53	0.24
瀧野川信用金庫	85.41	87.42	2.01
興産信用金庫	86.08	85.12	▲ 0.96
芝信用金庫	90.51	84.67	▲ 5.84
さわやか信用金庫	82.62	83.47	0.85
城北信用金庫	83.51	83.18	▲ 0.33
多摩信用金庫	76.76	78.85	2.09
東京シティ信用金庫	65.37	69.44	4.07
平均	89.69	90.29	0.61

5. まとめ

信用金庫は、主な取引先が営業エリアの中小企業や個人事業者、地域住民であり、地域経済を支える役割を果たしている。東京都内に本店を置く 23 信用金庫の総貸出金残高は、23 金庫中 21 金庫で貸出金残高を伸ばしたものの、貸出金残高の増加率は 0.34%と前年度末の 1.85%を下回った。一方で、中小企業金融円滑化法が終了した 2013 年 3 月末では、前年比で貸出金残高を伸ばした金庫が 21 金庫中 8 金庫にとどまっていたことに鑑みると、東京都における資金需要は依然として旺盛であるとみられる。

ただし、近時は融資見直しを検討するケースも増えてきている。ここ数年大きな伸びを見せてきた西武信用金庫の貸付金は前年度から約 10%減少した。投資用不動産向けの不正融資問題が発覚し、金融庁から業務改善命令を受け融資方針を見直したことが大きく影響した格好だ。

菅内閣総理大臣は、自民党総裁選立候補時に、「将来的に地方の銀行は多すぎる」と発言し、合併特例法の施行を 11 月に控えるなか、地銀再編への注目度が高まっている。こうしたことから地銀の再編に注目が集まりがちだが、地域の金融機関という点では信用金庫も同様であり、今後再編への議論が高まることが予測される。一方で、現在コロナ関連の緊急融資が積極的に行われている影響で貸付金は増加が予想されていることに加え、預金についても外出自粛要請などの影響で個人の支出が抑えられていることから、例年以上に増加していることが予想されている。

現在、新型コロナウイルス感染拡大の影響により都内信用金庫の営業エリアにおいても厳しい経営を余儀なくされている事業者は多く、各信用金庫も未曾有の事態に必死に対応している。信用金庫が地域に密着していることから、もし再編の機運が高まれば例年以上に各事業者に与える影響は大きく、動向が注目される。

【内容に関する問い合わせ先】

株式会社帝国データバンク 東京支社情報部 担当：森山・高田

TEL 03-5919-9341 FAX 03-5919-9348

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。

当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。報道目的以外の利用につきましては、著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。